

昭和62年度

ロータリ除雪車

(サイドスライド式)



建設省北陸地方建設局

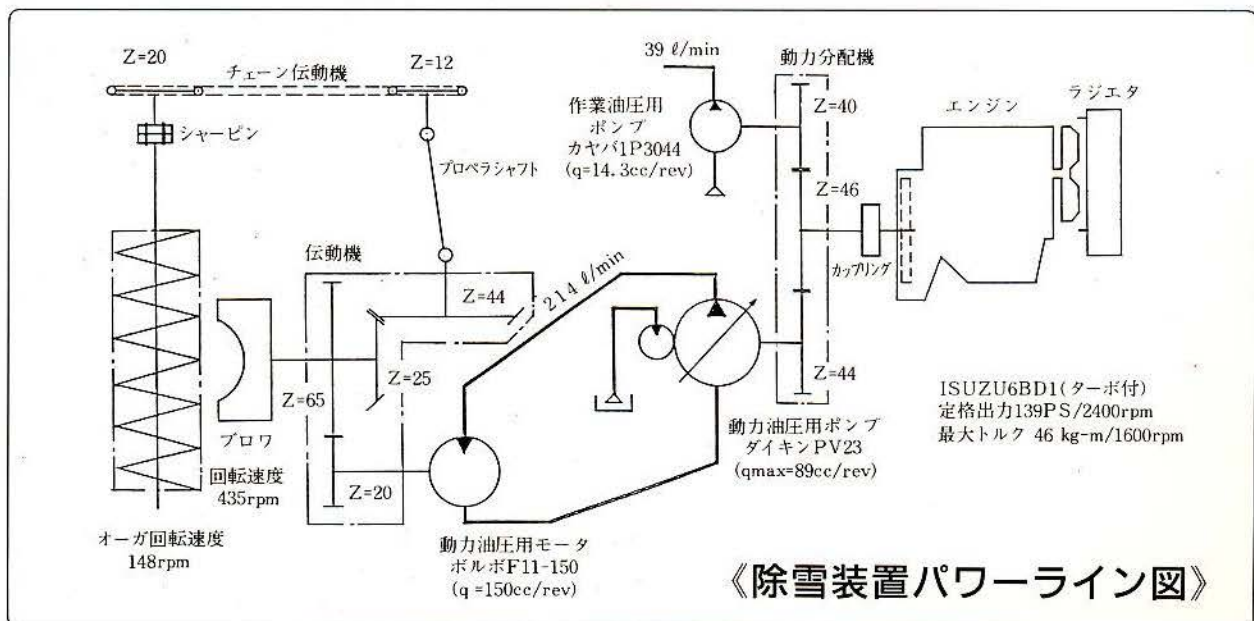
開発導入の目的

多雪地域では雪堤が高くなると、堆雪空間が狭まり次期降雪の拡幅作業が困難となる。また、交差点付近に堆雪した雪が一般通行車両の視界を阻害し交通の支障となることが多い。そのためこれらの雪堤を効率良く処理できる除雪装置の開発が望まれていた。

そこで、汎用機をベースマシンとしたユニットタイプの高雪堤処理用ロータリ除雪装置の開発・導入を図ったものである。

機械の特徴

1. 雪堤の段切りと、ダンプ積込み作業が同時に行える。
2. 一車線縦列積込みが可能で、処理作業中の交通障害を少なくすることができる。
3. 雪堤処理以外に、一般のロータリ除雪車同様、払巾除雪にも使用できる。また、歩車道間に防護柵等のない歩道の除雪にも使用できる。
4. 雪堤の段切時オーガ下端からの雪こぼれを極力防止するため、ブロアの位置を左側にし、オーガに仕切板を設けた。
5. 傾斜安定性の向上を図るため、除雪装置（オーガ、ブロア部分）は、原動機と分離してサイドスライドする構造になっている。
6. ベースマシンの改造が必要なく、運転室内に操作ボックスを設置することにより、すべての操作が本体運転室で行える。
7. 油圧駆動方式の採用により、自動制御等、今後広範な対応が期待できることと各種ベースマシンへの応用が可能である。



作業写真

高雪堤処理作業



交差点部処理作業



← (処理後の交差点部)

歩道除雪作業
(マウンドアップ箇所)



《除雪装置仕様概要》

項目	諸元	項目	諸元
形式	ツーステージ式ロータリ形	最大除雪量	750t/h
オーガ巾×外径	リボンスクリュ型1621×920mm	最大投雪距離	20m
フロア外径×奥行	4枚羽根遠心式850×330mm	最大除雪巾×除雪機構前面高	2800×1300mm
機関定格出力	139PS/2400rpm	最大スライド量	1450mm
油圧ポンプ	可変容量プランジャ式 214ℓ/min(240kg/cm ² /2509rpm)	全高(シュート上端)	3000mm
油圧モータ	定容量プランジャ式 214ℓ/min(240kg/cm ² /1415rpm)	全長(雪切板先端から ベース取付ピン)	2530mm
適応ベースマシン	12t級ホイールローダ	重量	3900kg

《三面図》

